



特集：「災害対策を考える」～いろえんぴつの取り組み～



＜スプリンクラー＞



70度以上の熱で
作動します

＜火災報知器＞



火、煙、熱を
感知します

＜小規模社会福祉施設の防火実務講習会＞
講義と実務訓練を行います。いろえんぴつで働く職員として
全員が受講できるようにしています。



【防災対応機器】

＜避難誘導灯＞



＜防火扉＞



最新の折りたたみ防火扉です

●地震による避難訓練のようす



●外への避難訓練

平成23年3月11日の東日本大震災は、まだ皆様にとっても忘れがたい記憶として残っていると思います。首都圏での直下型地震もいつ起きても不思議ではないと言われている中、当法人ではBCP計画書※参照を作成し、いろえんぴつもそれに沿って訓練計画作成や備蓄品の確保を行い、定期的に防災訓練を実施しています。利用者みなさんには「いざ」という時、慌てる事のないように職員と一緒に取り組んでいます。いろえんぴつは安全性の高い建物ですが、それを有効に活かすのもそうでないのも、私たちの心がけひとつだと思っています。

利用者の防災訓練は実際に体を動かすものと、クイズ形式で分かりやすく避難方法を学ぶ勉強会を開催して意識を高めています。職員は外部研修に出かけ防災機器の取り扱いを熟知し、ベランダからの誘導方法を体験しています。法人内ではリスクマネジメント会議を月1回開催し、職員間の連携を密にし『安心、安全ないろえんぴつ』を目指していきます。いろえんぴつ防災担当：糸井公喜

※「BCP」とは、「災害時事業継続計画」のことで災害が発生したときに重要業務が中断しないこと。万が一事業活動が中断した場合でも、目標時間内に重要な機能を再開させ、業務中断に伴うリスクを最小限にするため、平時から事業継続について戦略的に準備しておく計画。



●利用者がお休みの日に「災害の勉強会」をやっています！



●非常災害「持出袋」も準備OK！

●写真掲載についてはご本人ご家族の同意を得ています



隣接する「特別養護老人ホーム 博水の郷」では年一回、地区の消防署や法人各事業所が一体となって合同訓練が開催されます。参加した利用者は普段見ることのない放水訓練や地元消防団の動きに見入っていました。